

## 国際金融動向

最近の国際短資の動きは、金利裁定動機に基づく資金移動は引き続き平静裡に推移しているが、英国総選挙延期に伴う海外ディーラー筋の持高調整操作による英国への資金流入および西ドイツからの米国への短資輸出の活発化が目立っている。

### 英国への資金流入目立つ

英米間短期金利差(先物カバー後3ヵ月物TB)は、米国TBレートが4月下旬に低落のあと若干持ち直し気配にみられるものの、引き続き僅少なから英国高で推移しており、米国からの金利裁定資金の目立った流出はみられない模様である。またユーロ・ダラーからの転換資金をかなり取り入れていた英国地方公共団体の取入金利は、さきごろ発表された64年予算案における公営事業貸付局の地方公共団体向け融資の大幅増枠を映じ、低下傾向を示している(3ヵ月物、4月上旬5⅓%→5月中旬5%)。

このため、先物カバー・コストを考慮すればユーロ・ダラー資金のポンド転換の妙味はこのところほとんどなく(5月中旬⅓%の逆ぎや)、この面からも英国への短資流入要因は弱まっているものとみられる。

### 英米間金利比較

(単位・%)

	米国TB (3ヵ月) 入札金額	英国TB (3ヵ月) 入札金額	先物 カバー・ コスト	英国への 短資 流入要因
4月第1週	3.503	4.301	0.729	0.069
2	3.484	4.301	0.765	0.052
3	3.463	4.302	0.729	0.110
4	3.446	4.302	0.722	0.134
5月 1	3.482	4.300	0.757	0.061
2	3.491	4.298	0.757	0.050
3	3.482	4.365	0.793	0.090

一方、最近のポンド相場は堅調裡に推移しており、とくに4月下旬から5月上旬にかけてポンドの対米ドル直物相場は昨年8月以降久方ぶりにバ

リティを回復するにさえ至った。これは、4月における英国貿易収支の大幅悪化(107百万ポンドの赤字、「国別動向」英国の項参照)にもかかわらず、海外スターリング地域諸国における季節的な輸出増加のほか、英国の総選挙が秋まで延期されたことに伴い従来ポンド持高を薄くしていた外国ディーラー筋がポンドの買持ちに転じていることがかなり影響しているものとみられている。

このような海外ディーラー筋の持高調整による資金の流入増加はもとより一時的なものであり(4月における英国の対外準備高の増加19百万ポンドは大部分上記要因によるとみられる)、したがって、最近のポンド相場の堅調は基調的なポンド信認の回復に基づくものとは考えられないので、引き続き英国貿易収支の悪化、総選挙接近に伴う政治的不安の発生などが見込まれるおりから、ポンド相場の今後の動向は、とくに注目される。

### 対ドル・ポンド相場

	直物 (仲値)	先物 (3ヵ月)	スプレット (3ヵ月)	スプレット (年率)
64年3月20日	2.7983 <sup>ドル</sup>	2.7934 <sup>ドル</sup>	0.49 <sup>セント</sup>	0.700 <sup>%</sup>
31日	2.7985	2.7936	0.49	0.700
4月10日	2.7987	2.7933	0.54	0.765
20日	2.7988	2.7937	0.51	0.729
28日	2.8001	2.7948	0.53	0.757
(パリティ回復)				
30日	2.8001	2.7946	0.55	0.779
5月11日	2.7991	2.7940	0.51	0.729

### 西ドイツの短資輸出活発化

一方西ドイツでは、4月から実施された非居住者預金準備率引上げによる外資の国内運用利回り低下に季節的な国内金融の緩和も加わり、このところ短資の流出がきわめて活発化している。流出短資の一部はユーロ・ダラー市場へも流れているが、最近の市中先物カバー・コストの上昇および米国TBレートの持ち直し気配などから、その多くはブンデスバンクの対市中特別スワップ操作を利用した米国TB購入に向かっているものとみられる。

このような情勢からユーロ・ダラー市場金利はこのところほとんど変化を示していない。しかし、西ドイツでは6月の納税資金需要期をひかえ当面の短資運用期間はごく短期のものとする必要があるのでブンデスバンクの対市中特別スワップ条件がさらに有利(期間の短縮—現行、3か月—スワップ・レートの下げ—現行 $\frac{1}{2}$ %ディスカウント—)に改訂されない限り余資の一時運用としてかなりの短資がユーロ・マネー市場へ向かう可能性が大きいと考えられる。

### ソ連の金売却動向

本年3月17日に再開(約45百万ドル)されたソ連の金売却は、その後も引き続き多額に上り、本年第1四半期中の売却額は前年同期の2倍以上、1.8～2億ドル程度に達しているものと推測されている。

このような最近におけるソ連の活発な、金売却は昨年秋に締結されたカナダ、米国および豪州からの小麦および小麦粉の輸入代金(運賃込み、カナダ約6.3億ドル、米国、豪州計約3.5億ドル、合計9.8億ドル)調達のため行なわれているものとみられる。小麦などのソ連向け船積みは本年6月までに約半分が実行され、残りは本年9、10月ごろまでに完了する予定となっており、本年のソ連金売却は昨年実績の約4億ドル(同年中世界金供給総額の約28%、B I S推算)をかなり上回るのではないかとの見方が多い。

このようなソ連の積極的な金売却にもかかわらず、このところロンドン金市場の相場は金プールの買い操作にささえられて比較的平静を保っているが、季節的にソ連向け小麦輸出の本格化が見込まれるおりから、引き続きどの程度の金売却が行なわれるか注目されよう。

なお、ソ連の金生産額と金準備高については、公式統計が発表されないため把握しがたいが、西欧筋では先般ソ連がカナダの小麦輸出延払い提案(船積時25%現金決済、残り75%分につき6～18か月間信用供与)を拒絶したことなどからみてかなりの額に上っているのではないかとの見方が強

い。このような見方から年初発表された米国C I A(中央情報局)の推定(生産額1.5億ドル、保有高20億ドル)は過小にすぎるとみられている。

### ロンドン金相場推移

(1オンス当り・ドル)

	建 値	終 仲 値
64年3月末	35.08	35.08
4月10日	35.07 $\frac{1}{8}$	35.07
20日	35.07 $\frac{1}{2}$	35.07 $\frac{1}{2}$
30日	35.08 $\frac{3}{8}$	35.08 $\frac{1}{2}$
5月11日	35.07 $\frac{5}{8}$	35.07 $\frac{1}{2}$
20日	35.07 $\frac{1}{4}$	35.07 $\frac{1}{2}$

## 国 別 動 向

### 米 州 諸 国

#### ◇ 米 国

##### 景気上昇、戦後の平時最長を記録

4月の景況は依然底堅い上昇基調を続け、生産指数は自動車・鉄鋼の好調を主因に129.2と前月比1ポイントの上昇を示した。生産指数が月中1ポイント上昇したのは昨年6月以来のことである。4月中の自動車生産台数は前年同月を14%上回る786千台を記録、鉄鋼操業率も3月中の平均74%から4月中には77%台に上昇した。また4月中の個人所得は昨年来の上昇傾向を続け、前月(4,809億ドル—改訂)を22億ドル上回る年率4,831億ドルを記録した。以上の結果、1961年3月以来継続している現在の景気上昇局面は、戦後の平時最長である38か月に及んだ。

なお、本年第1四半期のGNP(季節調整済み、年率)は、前回発表の6,085億ドルから6,080億ドルに改訂され、前四半期に対する増加額は79億ドルとやや小幅にとどまった。

##### 設備投資予測、企業収益実績ともに好調

このように活発な経済活動に加えて、このところさらにいくつかの明るい材料が提供されている